

令和6年度「自己評価報告書」

社会福祉法人愛護会
第二東水沢こども園

1. 保育目標

- 健康で明るい子ども
- 自分のことは自分でできる子ども
- 他人のことを考え、協力できる子ども
- 何故だろうと考え、物事に興味を持つ子ども
- 自然に親しみ、愛することができる子ども
- 人の話をしっかり聞き、自分の意思を言葉で話せる子ども
- 豊かな心を持つ子ども

2. 施設運営の重点課題

- ①子ども一人ひとりに寄り添い、豊かな自然体験や社会体験、日本の文化に触れる和太鼓演奏体験など特色ある教育・保育活動を展開し、たくましい子を生み育てる保育の実践を進める。
- ②「食を営む力」を育むために、家庭との連携を深め、子どもの健やかな心身の成長発達を促す。
- ③異年齢保育、世代間交流を積極的に行い、園の教育・保育活動を知ってもらい、地域に根ざしたこども園を目指す。
- ④保護者のニーズや思いに寄り添い、保護者との信頼関係を構築し、子育て支援を行う。
- ⑤自己評価等、職員研修を通して、一人ひとりの資質向上に努め、「子どもの最善の利益」を保障する教育・保育を提供する。
- ⑥こども園移行初年度となることから、地域の方々にこども園を知っていただくよう、ホームページ等の活用を進める。

評価の基準

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組んでいるが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

3. 評価の項目と取り組み状況

自己評価項目	評価	取り組み状況
1 子ども一人ひとりに寄り添い、豊かな自然体験や社会体験、日本の文化に触れる和太鼓演奏体験など特色ある教育・保育活動を展開し、たくましい子を生み育てる保育の実践を進める。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達が興味や関心を示した事柄を保育に取り入れ、日常の活動や行事に取り組んだ。（動物や虫など生き物への関心から活動を展開した。） ・園外保育等に関しては、地域の公共施設（公園、図書館、工場見学等）や徒歩で出かけるなど様々な活動に積極的に取り組んだ。 ・年長児は、クラスでの話し合いを通して、自分たちでお話づくりを行い、発表会で、役、セリフ、踊りを子ども達で考え作り上げ、発表することができた。 ・和太鼓「風と妖精」の活動は、町内会の夏祭りに参加させていただき、披露することができた。今後は、地域のイベントへの参加の機会を増やすなど取り組んでいきたい。
2 「食を営む力」を育むために、家庭との連携を深め、子どもの健やかな心身の成長発達を促す。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年も畑活動に取り組んだ。天候もあり、思ったように育たないという経験もあり、子ども達の気づきにもつながった。 ・収穫できた野菜は、給食での提供やクッキングを行うなど、食への関心にもつなげるよう取り組んだ。 ・離乳食の進め方やアレルギー食については、保護者との情報共有に努め、栄養士、調理員も含めた対応を行った。 ・今年度から全園児完全給食となったことから、今後は、さらに子どもの食に関する状況をしっかりと把握し、工夫ある食事提供に努めていく。

3	異年齢保育、世代間交流を積極的に行い、園の教育・保育活動を知ってもらい、地域に根ざしたこども園を目指す。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・水沢南中学校3年生の生徒さん方との交流を行うことができた。子ども達との遊びを考えてきてくれるなど、幼児とかかわることで、生徒さん方に保育を考えてもらう機会にもつながった。 ・地域の方との交流は、限られた機会となってしまった。年末の餅つきに参加してもらい、臼で餅をつき、鏡餅作りを楽しむことができた。 ・町内会の方に、文化祭や発表会においていただくことができた。コロナ以降、初めてお呼びすることができ、今後も継続していくことで、たくさんの方に園を訪問してもらいたい。 ・地域子育て支援として、一時預かり保育事業を実施し、積極的な受け入れに努めた。今後も利用希望者の受け入れを行い、子育て家庭のニーズに答えていくよう努める。
4	保護者のニーズや思いに寄り添い、保護者との信頼関係を構築し、子育て支援を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者参加の行事は、感染症や暑さ対策などにより、日程変更や内容変更をさせてもらうこともあったが、保護者の皆様のご協力のもと、中止はせずに開催することができた。園行事にご家族皆様に参加いただくことで、お子さんの成長を確認しあえる機会となった。 ・個別面談や保護者保育体験を開催し、お子さんの様子を共有することで、園での保育の手立てとさせていただくことができた。 ・保護者への情報、連絡手段としてマチコミメールを活用することで、スムーズな対応を行うことができた。今後は、よりスムーズに連絡等ができるよう、活用を進めていく。
5	自己評価等、職員研修を通して、一人ひとりの資質向上に努め、「子どもの最善の利益」を保障する教育・保育を提供する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月職員研修会を開催した。テーマは、その時に最重要事項となる事に変更するなど、柔軟に取り組んだ。 ・「人権擁護のセルフチェックリスト」活用により、自分の保育の振り返りによる気づきから、次への保育実践につなげるよう取り組んだ。
6	こども園移行初年度となることから、地域の方々にこども園を知っていただくよう、ホームページ等の活用を進める。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援「にじのこ広場」を開催し、地域の子育て家庭へ利用を呼びかけたが、利用者は少なかった。今後は、もっと情報公開をすすめていくよう取り組む。 ・園のブログの更新等も行ったが、回数的に少なかった。情報発信については、今以上に積極的に取り組む必要がある。